

THE KŌHŌ NANKOKU

 広報 **ナニヨク**

第 8 3 号

昭和41年12月30日

編集発行
南 国 市 広 報 委 員 会事務所
高知県南国市役所内
(電 2111)印刷 川北印刷株式会社
(電 3151・有線155-11)
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 交通事故の

 〇〇
 追放へ
 〇〇


「市民の市民による交通安全」を合言葉に全国にきかけて市に市独自の『交通安全日』が設けられました。去る十日はその第一回目の事故ゼロの日でしたが、当日は金堂市長を陣頭に市職員たちが主体となって、街頭での指導、車による宣伝やモーターによるパレードなどを行ない市民に事故防止の呼びかけを行いました。

12月の人口

= 11月の異動 =

出生 165 死亡 129

転入 1,072 転出 708

11月末の人口 42,490

世 帯 数

11 月 末 11,530



▼人間誰でもある。立派な家にすみたい、美味しいものが喰べたい、美人を妻にしたい、遊びたい、これらの欲をみすには先づ金を

手にしなくてはならない、そのためには働かねばならぬ。田園都市たる南国市の大部分の農民が金を得る方法は種々あるだろうが、ハウス園芸は最たるものだ。先日出荷場の落成式で話によれば県全体で百二十億圓に達しており二百億圓の目標に達しようである。市でも三億圓突破も間近という。ピーマン一個が卵一個とくらべられる時代である。このハウス園芸が農閑期の冬にやれるとは実に有利である。暖かさにおいては上佐は日本の筆頭に位置している。

▼年末がせまった一年中で最も金のはしい時期である。今農家にぞくぞく金が入っているのは園芸農家だ。ハウス園芸は県下でも東や西の土地のせまい場所から始まり、いまや一番土地の広い南国市の香長平野に急速に広まりつつある。旺代の波である、波に乗る乗らぬはやはり人の頭である。

農業に誇りを

計画的農業投資の増大へ

高知と聞くと、何をか古しい財政のなかから、何と何という予算をきいて、長い準備期間を経て行なわれたこの講座

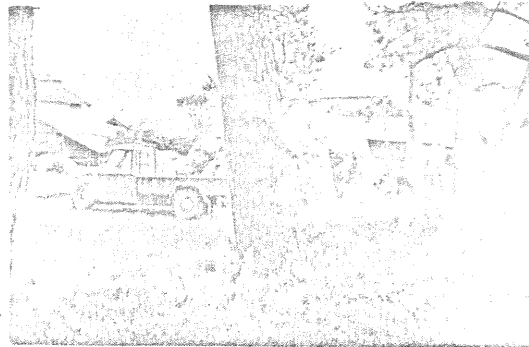
『第一回 農業大学』が 教えるもの

は、単なる生産技術や農業経営のみでなく、広く日本の経済と世界経済の流れの中で、農業をどうしなければならぬかを教え、その方法はどうか、その実現の可能性を示したところに大きな意義があったと深く感謝している。

ほんの少数の者が中央で接し、ご指導にあづかっていた各界一流の講師の話を多くの市民とともに親しく聞くことができたことは大きな収穫であった。

一部に話がむづかし過ぎた、期待外れだ、時期が悪いなどの批判

をいただいているが、テーマも良く整理して、全体的の印象にしなければならぬ。



以下学び得たことを、述べて見たい。

「人手不足」、農民にとって年々深刻となり、わたしたちにとって困ったこの問題について、講師は困ったというより、むしろ日本農業が前近代の農業から、近

代農業へと変わって、農業の生産性が向上しているという点に、興味がある。

第三に、「生産性」の向上は、日本農業の最大の課題である。生産性を向上させるには、農業の生産手段を近代化させる必要がある。農業の生産手段を近代化させるには、農業の生産手段を近代化させる必要がある。

これは、農業の生産手段を近代化させる必要がある。農業の生産手段を近代化させるには、農業の生産手段を近代化させる必要がある。

保存に気を 付けましょう

名所、古跡、有名な建造物が付近に物件が設置されて風致を害したり、景観の損傷をつくっていることを見かけます。写真は前浜にある伊都甲神境内。状態はいつも変わりますが、とにかくひどいものであります。

祖先が残した形見をだいじにしましょう。

真の農業改革への継続的、計画的農業投資の飛躍的増大を政府に対し、米価運動と等しい行動を起すべき時期が来たことを教えられた。

徳永 安雄

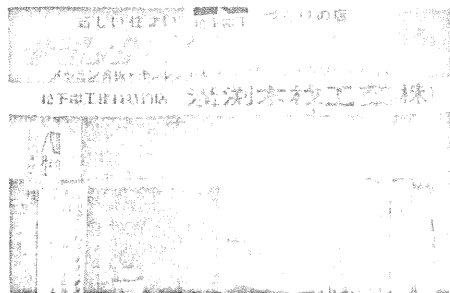
新建材は在庫豊富な

溝 渕 木 材 へ !!!

ナショナルビル南国支店

各種 フ リ ン ト
ナショナルタイル

〒 8 2 5 0 8 出



季節	病名	脳卒中	心臓病	癌	老 衰	その他
春		18%	18%	23%	19%	20%
夏		20	20	22	24	16
秋		22	27	23	25	14
冬		40	45	32	33	40



故死、肺炎、氣管支炎、結核、高血圧、自殺、新生児など毎年

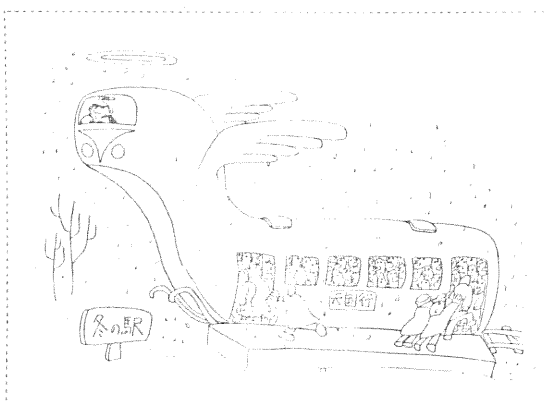
風邪は冬に、陽炎は夏といったように、病氣には季節季節の特徴がある。しかし文明が進むにつれ、病氣も昔の一定の流行期にかぎらず、種々の変化をもちしはじめた。例えば、赤痢が昭和二十五年頃まで、七月―八月に多かったが、三十五年以後から、一月―五月に多くなつて、夏にへつてきている。最近の死因の順位をみると、脳卒中、心臓病、老衰、事

れの病氣をみて、もトップであるが、特に卒中、心臓病等は、春の二倍以上となっている。冬の季節病といわれた肺炎、気管支炎、流感、心臓病、脳卒中、老衰等は依然として冬に多いが、腸炎、チブス、赤痢、脚氣など夏に流行した病氣

んで、エネルギ―の消耗もはげしい。冬季こそ榮養剤、ビタミン剤、果物生野菜などを多量に摂取することが大切である。高血圧、脳溢血、心臓病患者は、白米の過食、食塩のとりすぎ、ビタミンB、Cの不足が症状を悪化さす原因とする。また赤ちゃんの場合、体温調節が十分でないので、室温に配慮するよう着物を調節し、なるべくうす着にして、外出の時は、風の

今や建築ブームの
感がある。赤く塗っ
た鉄骨建築、木の青
におう木造建築、
或はコンクリートの
ビル等々。主としてこれから鉄骨
の家を建てる方々になる点
を少し書いてみよう。

墓場は冬忙しい



そのため、そのために動物性蛋白質をひかえ、植物性蛋白質を買や、植物性油をとること、が大切である。東北地方、高血圧、脳卒中の多い地方でも、いろいろな原因がある。その原因は、感染の機会が多いので、赤らちゃんはつれてゆくことはやめなくてはならない。また昼にはうす着にして、適度の日光浴も忘れてはならない。日本の家はすきまが多く、室内の温度を一定に保つことはむづかしいが、室内は十六度、二十度、寝室は十二度、十四度位の温度を保ちたいものである。また熱い長風呂にはいることは、上記の患者は危険であり、老人は四十度位のお湯に、ゆっくりはいるように心がけたい。高血圧症、心臓病、老人などは、精神的のいらい

のとおりで、春、暑い時は、汗をかき、疲労も強く夏、秋、感ずるので、各人が健康に注意して、ビタミン剤、栄養剤などをとるのに一生懸命であるが、秋から冬にかけては、さほど気にしないが、冬は厚衣のため、体表温度は多量高温となり、基礎代謝もさか

も最近では冬にふえつつある。夏の暑い時は、汗をかき、疲労も強くなる。暑い時は、汗をかき、疲労も強くなる。暑い時は、汗をかき、疲労も強くなる。

ンゴや柿を多くたべるところはかかる患者がすくないといわれている。

寒冷昇圧試験という実験がある。血圧の高い人が、両手を冷水の中に約五十六分つけておくと、血圧が正常位に昇することを確認されている。それからみて、

いらいや、睡眠不足、過労などの障
害から解放されるよう、とくに本
年は、氣候が不順であり、寒さが
きびしいといわれるので、日常生
活に注意して、寒い冬を無事にす
ごされるようおすすめする次第で
ある。(胡鯉)

り、これは厚さも一〇〇位あって、C型鋼よりは大分強く使われている。最近では八幡のスタンフレーム、川鉄のテーパースチールなどボールドで締付けたらすぐ使えるように最初から完成品として売られているものがある。床板の代りにV型デッキプレート、キーストンプレートなど波型の広い鋼板が広く使用されている。これらの鋼材による建築は木造に比べて安くつくので、最近では広く使われるようになった。これも鉄の生産量が日本は世界第一位になったからである。

よ
み
ま
し
よ
●
み
ま
し
よ

歩行者の

交通に一言

自動車数の増加とともに交通量は日毎に増え、道路の横断は困難な状態になってきました。

ところで交通事故は運転者の過失、歩行者の不注意、道路の不整備、自動車の機械的な欠陥などが原因となっています。これらの事故によって人または自己を死傷においや



みなさんの声、意見をお寄せください。
 〓 六百字以内 〓

〓 六百字以内 〓

生を暗くすることになります。しかもこの死傷者の数はすでに昨年の数をはるかに上廻っています。

道路を横断する歩行者について考えてみるに、横断の場所でない

ところや、車の前へ突然走り出て横断しようとする者もあるが、安全を確認して横断する

ように心掛けるべきです。いくら急用があるといっても車にはねられてはなんにもなりません。

歩行者が交通事故にあったときは、実地検証の結果歩行者に過失のあるときは、賠償金と或る程度相殺されます。

ところで母親がよちよち歩きの子供を路上に放置し、立話しをしているのをよくみかけます

が、抱くか、かならず手を引くかして監督していることが大切です。

道交法に「児童（六歳以上、十歳以下）もしくは幼児（六歳未満）」

市役所には市民の利益にならない、高齢高給者がかかりいるという。この人たちの能力について職員の中にも「臨時に雇っている経

済」を保護するものは、道路、踏み切りや、その付近の道路で遊ばせたり、監督者が付き添わないで幼児を歩行させてはならないとされています。

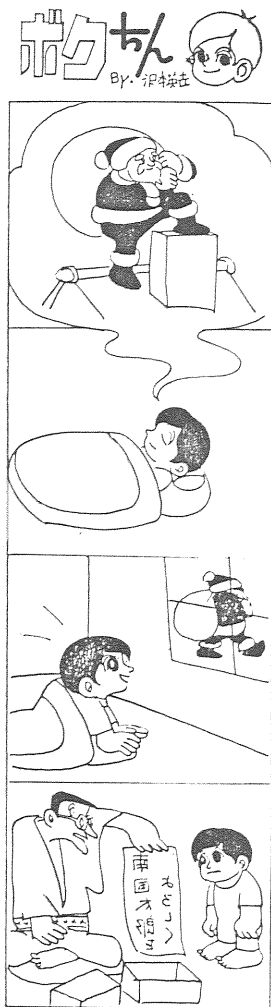
親はもとより家族の方は、児童や幼児の監督の義務があります。十分注意しないと万一交通事故が発生したときに、被害者側の過失の一種として、過失相殺の対象となります。

歩行者は十分注意して歩き、交通事故にあわないように気を付けましょう。

村土雄紀（行政書士）

臨時と能力が同じとは

市役所には市民の利益にならない、高齢高給者がかかりいるという。この人たちの能力について職員の中にも「臨時に雇っている経



無料法律 人権相談所

毎月20日 中町公民館

敬治 芳照
 長直 弥
 橋本 田交
 高島 浜入
 上野田 岩 浜 村
 瓶 前 田
 人権擁護委員

験つて、若いと変わりがない」と批判する者がある。

給料は、高齢高給者は臨時の四十五倍取っているだろう。それで仕事の手当に変わりが無いという、内部の争いがあることは考えさせられる。

定年制がないにしても、市当局は高齢高給者の整理を考えなくてはならないし、該当者も身辺の「社会」を振り返り身を引くべきである。職をなくするという個人の悲しみは、公の場では認められないのが社会である。最近になって大企業のように、定年延長をやる例があるが、給料は会社の金でまかない、公務員のように公の金で支払わないから違いが大きい。市の場合、たとえば一人の高齢高給者が引くと、同等能力の若い

新年俳句会

とき 1月8日
 ところ 国分寺
 しめ切り 午後1時7分以内

主催 国分地区公民館
 後援 市教育委員会

解決した罷免問題

市をさき氏教育長罷免問題で提訴中であつた、市と国沢正喜げとの紛争は、このほど円満解決をみ裁判の取り下に行なわれました。

編集後記

一九六六年に「さよなら」をいう日がひしひしと近づいてきました。どなたも幸せ多い新しい年を元気でむかえください。